



第5章

リーディング プロジェクト

リーディングプロジェクトとは

- プロジェクト1. 「もったいない」の精神を養い、資源を有効に活用する地域循環型まちづくりプロジェクト
- プロジェクト2. 歩いて楽しい、乗って心地よい、コンパクトなまちへ低炭素型まちづくりプロジェクト
- プロジェクト3. 人と環境にやさしく、災害にも強い、スマートなまちへ低炭素型まちづくりプロジェクト
- プロジェクト4. 豊かな自然から受ける多くの恵みを未来へ引き継ぐ自然と共に生きるまちづくりプロジェクト
- プロジェクト5. 環境教育の充実と環境情報の共有化を推進する地球にやさしい人づくりプロジェクト

リーディングプロジェクトとは

リーディングプロジェクトは、本市の環境の将来像「協働が築く自然と都市が調和するまち 松山～緑の映える快適で“笑顔”広がるまちを目指して～」の実現に向け、今後10年間で重点的に取り組むべき環境施策です。リーディングプロジェクトの推進により環境施策全体の実効性を高めます。

環境の将来像

**協働が築く
自然と都市が調和するまち 松山**
～緑の映える快適で“笑顔”広がるまちを目指して～

リーディングプロジェクト

プロジェクト1. 「もったいない」の精神を養い、資源を有効に活用する
地域循環型まちづくりプロジェクト

プロジェクト2. 歩いて楽しい、乗って心地よい、コンパクトなまちへ
低炭素型まちづくりプロジェクト

プロジェクト3. 人と環境にやさしく、災害にも強い、スマートなまちへ
低炭素型まちづくりプロジェクト

プロジェクト4. 豊かな自然から受ける多くの恵みを未来へ引き継ぐ
自然と共に生きるまちづくりプロジェクト

プロジェクト5. 環境教育の充実と環境情報の共有化を推進する
地球にやさしい人づくりプロジェクト

松山が誇るべき環境

- ◎ ごみの排出量の少なさ
- ◎ 給水量の少なさ
- ◎ コンパクトシティ
- ◎ 日射量の多さ
- ◎ 瀬戸内海の多島美
- ◎ 環境首都との姉妹都市関係
(フライブルク市)

松山が成長すべき環境

- ▲ ごみの再資源化率の向上
- ▲ 水資源の確保
- ▲ 環境分野に関する災害対策
- ▲ 生物多様性の保全
- ▲ 環境教育の推進
- ▲ 情報の発信・共有化

「もったいない」の精神を養い、資源を有効に活用する
地域循環型まちづくりプロジェクト

1 課題・背景

- 市民アンケートによると、環境問題の中でも日常生活と関連しているごみや水に関する環境を良くするための取り組みは、多くの人意識しているものの、地域のリサイクル活動に参加することに関しては、積極的に参加している方の割合が低くなっています。
- 市民会議の中では、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会が到来する前の、物を大切に長く使用する生活の利点を再認識し、「もったいない」の意識を持ち、ごみを「たから」に変えていきたい、また「たから」を磨く意識を次の世代に引き継ぐことで、ごみの発生を減らし、人口50万人以上の都市の中で1人1日あたりのごみの排出量が最も少ないまちを今後も継続していきたいとの意見が出ました。
- 市民会議の中では、平成6年の大渇水の当時を振り返り、松山市の気候、地形の特性に見合う施策が必要であり、市民の節水意識の高揚と水資源を蓄えること、また新たな水源を確保することが重要との意見が出ました。
- 家電製品などのごみの中から、有用な金属を回収するなど、資源の有効な利用が求められています。
- ごみや下水の処理施設について、計画的な施設の修繕・改修計画を作成することで、耐用年数の延伸とライフサイクルコスト¹の縮減が求められています。
- ごみの適正処理や不法投棄防止の対策など、市民の安全・安心を守るための取り組みを強化する必要があります。

2 取り組み内容

環境負荷の少ない社会をつくるため、限られた資源を大切に、可能な限り再使用・再生利用を進め、それでもなお、処理を必要とするものは、適正処理を行うことで持続可能な地域循環型まちづくりに取り組みます。

1 P65に語句説明あり。

3 具体的取り組み

(1) ごみ減量のさらなる推進

「ごみ減量日本一のまち松山」の確立へ向け、再利用可能な資源のさらなる有効利用に努めるとともに、ホームページなど各種広報媒体を活用し、啓発を行うことにより、ごみ減量に向けた取り組みを促進します。

- **ごみの発生抑制に関する普及啓発**

ごみの発生を抑制するライフスタイルの確立に向け、ホームページなど各種広報媒体を活用し、啓発を行います。

- **廃棄商品の有効利用について**

現在、事業所から排出される廃棄商品について、有効利用可能なルートを構築し、循環型社会を目指します。

- **資源回収システムの構築**

各種団体と連携を図り、再利用可能な資源を回収する仕組みの構築に努め、ごみの発生を抑制します。

(2) 資源の回収、有効利用の推進

循環型社会を構築するため、地域の特性に応じたごみの再資源化や、雨水利用を行うなど、各主体が協働して、地域内循環を優先したまちづくりを行います。

- **地域内循環の推進**

地域単位で分別回収を推進し、家庭から排出されるごみの再資源化をすすめる「地域循環システム」の実効性を高める仕組みづくりを行います。

- **粗大ごみからの有用金属の回収**

粗大ごみとして排出された家電製品の基盤などに含まれる、レアメタル¹などの有用金属を効率的に回収します。

- **下水汚泥の有効利用**

堆肥、セメント原料への再資源化に努めている浄化センターで発生した脱水汚泥のさらなる有効利用の拡大により、処分費用を削減するとともに、循環型社会を目指します。

1 地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出困難な金属のうち、工業需要の見込めるもの

● 節水の推進

家庭における水使用実態を把握し、より効果的な節水機器の普及促進を図るとともに、積極的な啓発活動を実施するなど、ハード・ソフトの両面から節水を推進します。

● 雨水利用の促進

雨水を散水やトイレの洗浄水として有効利用する雨水利用住宅・事業所の普及促進を図ります。



(3) 施設の有効利用

施設を有効に利用することや整備計画を策定することで、施設の長寿命化を実現するとともに、事故の未然防止を図り、安心して暮らせる環境を実現します。

● ごみ・下水処理施設の長寿命化

老朽化などに起因した事故の未然防止の観点から点検・調査を行うとともに、維持管理実施状況を踏まえ、今後の整備・運用について検討を行い、長寿命化対策を含めた施設の修繕・改修計画を策定し、市民の安全・安心を守ります。

● ごみ・下水処理施設の連携強化

ごみ処理施設と下水処理施設の連携を図り、互いの施設を有効利用することにより環境負荷の低減を目指します。

(4) ごみ適正処理の徹底

ごみの適正処理を行うため、地域住民との連携を図ることなどによる、不法投棄防止対策の徹底や処理業者への監視・指導を強化することで、各主体が協働して、環境への悪影響を未然に防止します。

● 不法投棄防止強化

不法投棄監視パトロールや監視カメラ・不法投棄禁止看板などの設置や地域住民との連携を強化し、未然防止や早期発見に努めます。

● 処理業者の監視、指導の強化

ごみ処理業者に対して、事業場への立ち入り調査を強化します。また、ごみの不適正処理が行われないよう行政処分を見据えた厳しい対処を行います。



4 各主体の役割

市 民

- ごみの発生抑制や節水など「もったいない」の意識を高めます。
- 適正なごみ分別及び排出抑制に努めます。
- 地域のリサイクル活動に積極的に参加します。
- 衛生機器や家電製品などの購入の際には、節水効果の高いものを選択します。
- 日常生活において節水及び雨水をはじめとした雑用水の利用に努めます。

事業者

- ごみ分別及びごみの排出抑制に努めます。
- ごみを適正に処理します。
- 衛生機器や家電製品などの購入の際には、節水効果の高いものを選択します。
- 事業活動において節水及び雨水をはじめとした雑用水の利用に努めます。

行 政

- ごみの適正な排出の仕方に関する情報を各種広報媒体を活用し、積極的に発信します。
- 資源化物の効率的な回収方法を確立します。
- 施設の有効利用を図ることで、ライフサイクルコスト¹を低減します。
- 不法投棄監視パトロールや監視カメラ・防止看板の設置を行います。
- 処理業者への指導・監督を行います。
- 市有施設に節水型設備や雨水貯留施設を先導的に導入します。
- 節水や雨水利用を促進させる施策に取り組みます。

¹ P65に語句説明あり。